

経営比較分析表

香川県 平等町

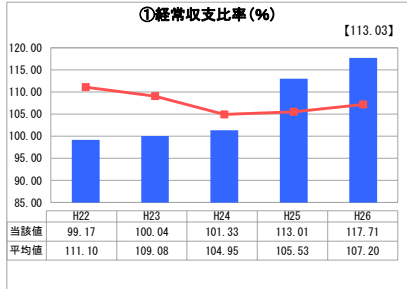
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	35.18	99.90	4,174

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
9,679	8.47	1,142.74
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
9,621	8.46	1,137.23

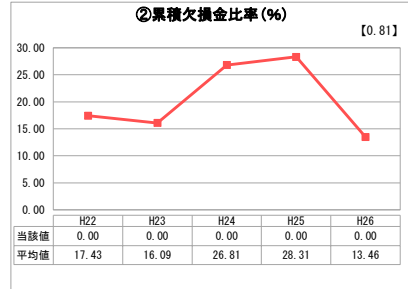
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

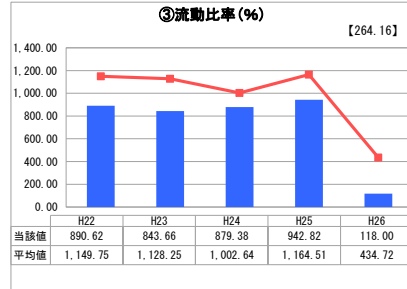
1. 経営の健全性・効率性



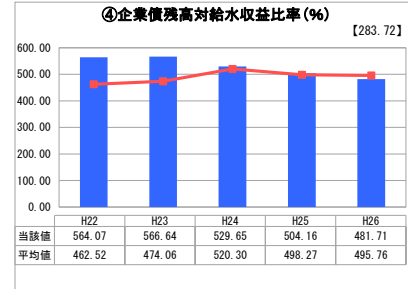
「経常損益」



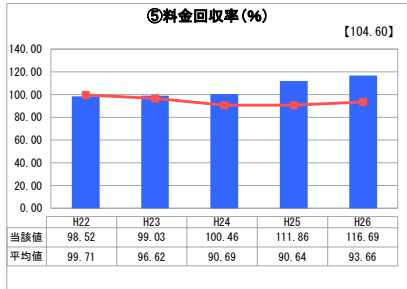
「累積欠損」



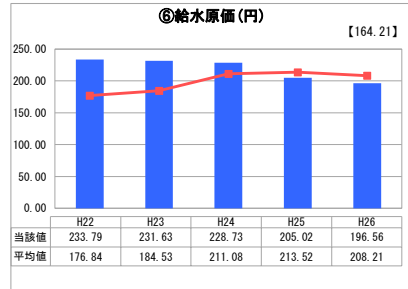
「支払能力」



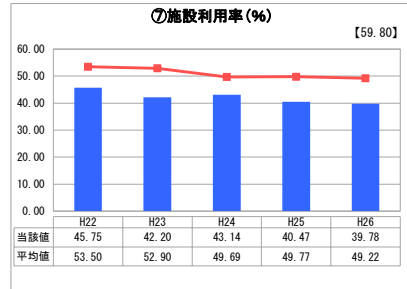
「債務残高」



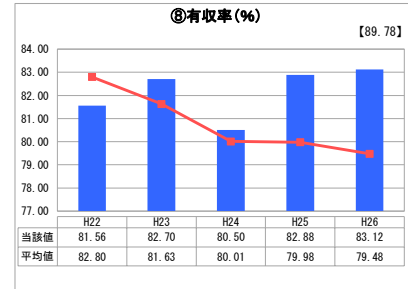
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

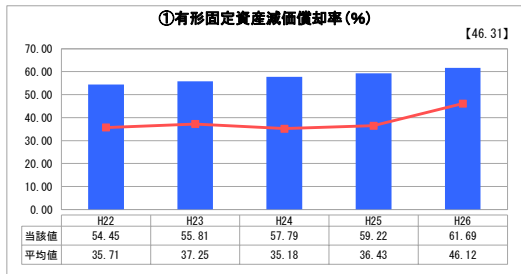


「施設の効率性」

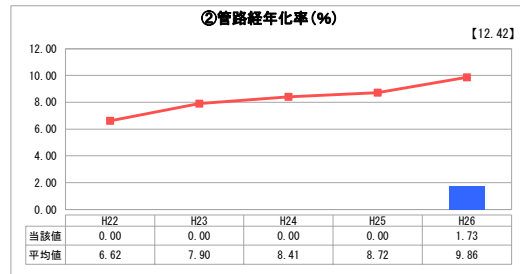


「供給した配水量の効率性」

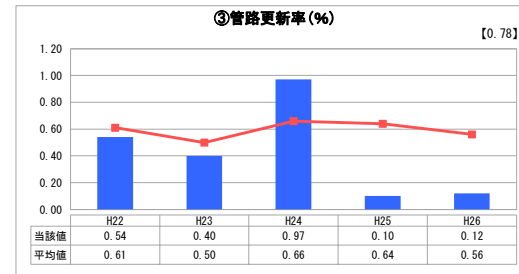
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

現状では経常収支比率（収益的収支比率）は平成25年度に適正な人員配置を行い、支出を抑えることにより100%を超えている状態が続いており、累積欠損金比率も0%であるため、経営は安定している。しかしながら、企業債残高対給水収益比率が類似団体平均より若干低い水準であり、流動比率が類似団体より低いため、企業債償還に際し厳しい状況である。その為、平成27年度より資本費標準化債を活用し標準化を行い経営の健全化を図っている。

有収率については平成24年度に改修工事を行った結果、類似団体より良くなり、料金回収率についても若干高い水準にはなっているため、健全経営に向けて前進していると考えられる。

今後、人口減少が見込まれ、収入が減っていくことが考えられるので、費用の削減を行っていく必要がある。

また、施設利用率が類似団体平均を下回っているのは、日量9,400m³で認可を受けている中で、現在使用していない水量（緊急時の県水受水量及び予備水源など）が含まれているためであり、それを除くと稼働率が90%以上になるため、過剰設備ではないと考える。

2. 老朽化の状況について

現状は、有形固定資産減価償却率が類似団体平均より上回っており、また、経管路更新率が下回っている。施設の老朽化により更新費用が発生すると予想されるが、現在、企業債の償還額が高いため、更新費用を確保できない状態である。しかし、企業債の償還は平成29年度より減少していくため、今後、更新費用は徐々に確保していけるという。

それ以外に更新費用を確保するためには、料金改定が考えられるが、現在の水道料金が県下トップクラスなためこれ以上の料金改定は不可能と考えられることから、経費節減し更新費用を確保しつつ、長寿命化等に取り組み、費用を節減していくこととしている。

全体総括

企業債の償還は、平成28年度がピークで徐々に減少していくことから、経営は健全化していくと考えられる。しかし、埋設管等の耐用年数が近づきつつあり、更新していかなければならないことから、計画的に更新していき経営の健全化に努めていく。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表

香川県 琴平町

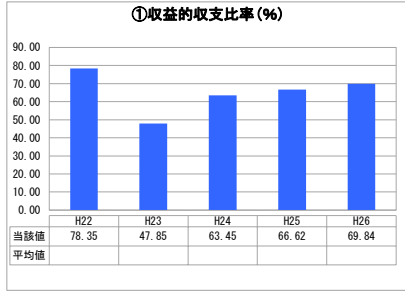
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	45.87	87.12	2,451

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,679	8.47	1,142.74
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,418	1.44	3,068.06

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



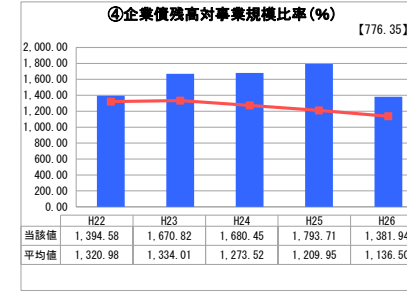
「単年度の収支」



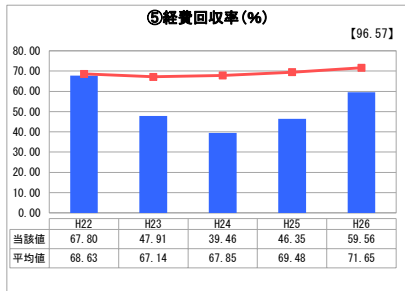
「累積欠損」



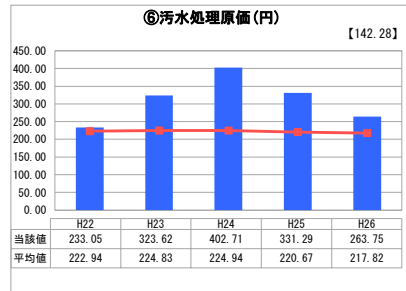
「支払能力」



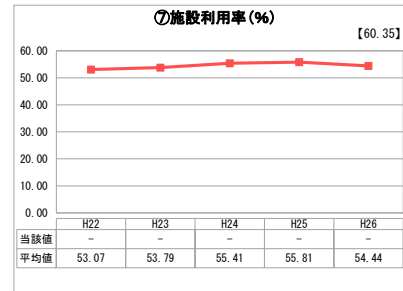
「債務残高」



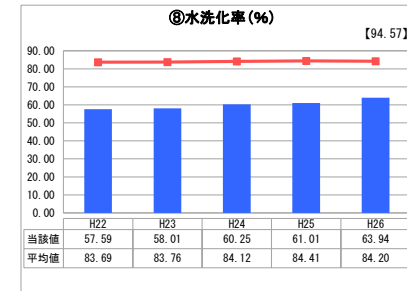
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

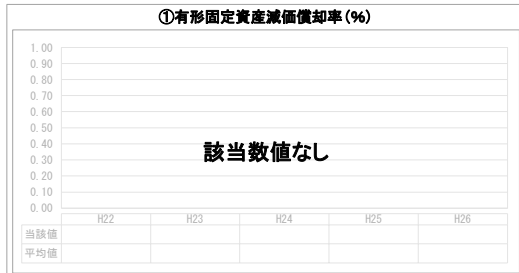


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

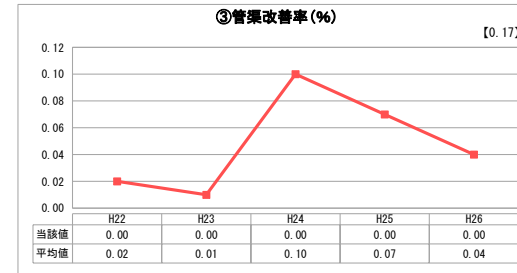
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、下水道整備事業の先行投資にかかる起債償還額および利息の支払い、流域下水道の維持管理負担金等が近年の有収水量の減による使用料収入の減収と相まって、100%未満の状況が続いている。同様の理由により経費回収率についても類似団体平均値を下回っている状況が続いており、汚水処理原価も類似団体平均値を上回っている。

近年のこの状況を改善する方策として、人件費の見直しによる維持管理費の削減や、地方債償還金を資本費平準化債により平準化を行う等の経営の健全化を行ってきたところであるが、更に経営の健全性・効率性を高める方策として、平成27年7月に料金改定を行い年間約2.1%の増収を見込んでいる。

また、水洗化率については、下水道施設の有効利用の観点から、毎年行っている未接続世帯への戸別訪問を継続して行い、類似団体平均値を下回っている水洗化率を向上すると同時に、有収水量及び使用料収入が増加するように引き続き努めていく。

なお、今後数年においては大幅な整備も行わないため、企業債残高は緩やかに減少が続くことが想定される。また一部地域については、地理的要因により整備費用が増大することが見込まれるため、引き続き費用対効果を検証し、合併浄化槽による水洗化の対応も含めて下水道事業を実施していきたい。

以上の方策により各指標が改善へと向かうものと考えている。

2. 老朽化の状況について

琴平町における下水道管渠の整備については、昭和62年から順次整備を行い現在に至っており、平成27年度において最長で29年経過している管渠はあるものの、標準耐用年数は50年となっているため、現時点で改築・更新作業は行わず、今後において点検及び調査を行ったうえで、長寿命化計画を策定して、予防保全的な管理を行うと共に既存ストックを活用して、計画的に改築・更新を行う予定である。

なお、琴平町の下水道は金倉川流域公共下水道に属しており処理場は保有していない。

全体総括

平成26年度決算及び今後の見通しについて、若干ではあるが各経営指標に改善の傾向がみられる状態である。また、平成27年7月の料金改定により更なる経営の健全性・効率性の向上が期待できると考えているが、同時に維持管理費の見直しも随時行っていく。また、今後の施設の老朽化が進むに連れ、更新費用の増加が見込まれることから、長寿命化計画等により更新費用の平準化を図れるよう対応していくことにより、下水道事業の経営を持続可能なものとしていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。